

令和 4 年 6 月 10 日現在

機関番号：23201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02456

研究課題名(和文) 東アジアの笑話と日本語・日本文学に関する複合的研究

研究課題名(英文) A Comprehensive Study of East Asian Humorous Stories and Japanese Language and Literature

研究代表者

川上 陽介 (KAWAKAMI, Yosuke)

富山県立大学・工学部・教授

研究者番号：00574451

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)： 東アジア文化圏における笑話の比較研究を行い、専門分野を異にする研究メンバーが、それぞれの立場から多角的な考察を試みた。

文学研究の立場からは、和刻本『訳解笑林広記』を取り上げ、日本・中国・朝鮮の「笑い」を比較検討した。その成果は、『訳解笑林広記』全注釈に公表している(継続中)。また、噺本や浮世草子に見られる「笑い」の要素を分析し、日本近世文学作品における「笑話性」の抽出を試みた。

一方、日本語学研究の立場からは、和刻本『訳解笑林広記』に見える「異体の漢字」に着目し、情報工学の立場からは、笑話検索システムの構築を目指して、継続的に作業を進めている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の中心的課題である『訳解笑林広記』の注釈作業の実施により、日本近世文学をはじめとする周辺諸分野の研究が飛躍的に発展することが予想される。東アジアにおける漢文笑話の研究は、これまで資料の正確な分析を欠くものが多かった。さらに、本注釈作業においては未開拓資料(『絶纒三笑』『笑林評』等)の調査にも着手しており、その学術的意義は大きい。

また、日本・中国(台湾)・韓国の研究者が協力して東アジア文化圏における「笑い」を研究するという学術交流は、いかなる社会情勢においても人類共通の文化が世界中の人の心を強く支えるという意味において、その社会的意義も決して小さくはない。

研究成果の概要(英文)： In our study, we conducted comparative research on humorous stories in the East Asian cultures. In accordance with their differing fields of expertise, the research group took a multifaceted approach from three distinct perspectives.

From the perspective of literary research, we explored sense of humor in Japan, China, and Korea through Yakkai Shorinkoki, an annotated Chinese jestbook published in Japan in 1829. The results of this work have been published as An Annotated Translation of Yakkai Shorinkoki, an academic paper series (in progress). Also analyzed were the elements of sense of humor found in Hanashi-bon and Ukiyo-zoshi and the comicality in Japanese Edo period literary works.

From the standpoint of Japanese linguistics, we have examined the allographs of Kanji (Chinese characters) found in Yakkai Shorinkoki. From the perspective of information engineering, we will continue to develop a search system for humorous stories.

研究分野：日中比較文学 日本近世文学

キーワード：訳解笑林広記 絶纒三笑 中国笑話 浮世草子 噺本 異体の漢字 笑話検索システム 朝鮮時代

1. 研究開始当初の背景

中国笑話集の日本文学への影響が指摘されて久しいものの、すでに全訳の備わる『笑府』以外の笑話は、日本国内では本格的に研究されていない状態であった。そのような現状を打破すべく、中国笑話集『笑林広記』『絶纒三笑』『笑林評』『四書笑』等の日本語訳（及び信頼できる本文と注釈）を提供し、東アジア文化圏における中国笑話の研究を本格化させたいと考えていた。

また、専門分野を異にするメンバー（日中比較文学、中国文学、朝鮮文学、浮世草子研究、噺本研究、日本語学研究、書誌学研究、情報工学）が情報提供を緊密に行うことにより、東アジアにおける多角的な笑話研究を活性化させたいと考えていた。

2. 研究の目的

(1) 日本・中国・朝鮮の「笑い」の性質を明らかにする。

(2) 日本・中国・朝鮮の笑話の影響関係を明らかにする。

(3) 中国笑話から、噺本・浮世草子をはじめとする近世小説や、落語・講釈・講談といった舌耕文芸・芸能への影響を明らかにする。

(4) 漢字表記や訓点資料の調査により、中国語受容の特徴を明らかにする。

(5) 笑話のテキストデータをネットワーク上に公開し、検索システムを構築する。

以上の研究により、文学研究のみならず、日本語学研究、芸能研究、さらには東アジアの風土・文化・国民性を比較検討する上で有益な知見を、幅広く提供することを目指している。

3. 研究の方法

(1) 和刻本『訳解笑林広記』（全 305 話）の注釈及び日本語訳を作成する。

(2) その際、中国笑話集『絶纒三笑』（朝鮮刊本『鍾離葫蘆』を含む）及び『笑林評』に和刻本『訳解笑林広記』と類話がないかどうかを漏れなく調査し、類話が認められる場合、「『訳解笑林広記』全注釈」の「補注」に、原本画像による翻刻（本文）及び日本語訳を掲載する。

(3) 江戸時代に日本で刊行された漢文笑話集または和文による文学作品の中に和刻本『訳解笑林広記』所収話の類話がある場合、その本文を「全注釈」の「補注」に掲載し、比較文化的な意義が認められる場合は、「全注釈」の「余説」に記述する。

(4) 中国笑話・和刻本漢文笑話集の噺本・芸能（落語・講釈・講談）への影響について研究し、さらに各資料の文字利用について研究する。

(5) 中国笑話と近世小説（浮世草子等）を研究し、「笑話性」がどのような形で現れているかを調査する。

(6) 和刻本『訳解笑林広記』テキストをデータベース化し、さらにその他の中国笑話集および和刻本漢文笑話集（『笑林広記鈔』等）のテキストデータのシステム化を模索する。

4. 研究成果

(1) 和刻本『訳解笑林広記』（全 305 話）のうち、計 281 話の注釈（素稿）を完成させ、第 1 話～第 110 話を公刊した（『訳解笑林広記』全注釈（一）（二）（三）（四）（五）（六）（七）（八））。既刊の注釈及び日本語訳は「中国関係論説資料」（論説資料保存会）に再録され、学界において、すでに一定の評価を得ている。

しかしながら、1 本の論文として掲載できる笑話の数はせいぜい 15 話程度であり、これまで公表している笑話注釈の総数は、全体の約三分の一にすぎない。本プロジェクトは、よくも悪くも、具体的かつ実証的すぎる反面、現時点において、その成果は、やはり断片的なものにとどまっていると言わざるを得ない。今後、全 305 話の注釈を完成させ、和刻本『訳解笑林広記』所収の笑話をまとめて刊行したときに初めて、国内外における本研究の真価が問われることになるであろう。なお、出版社との間で、近い将来、全話の注釈が完成した暁には、本注釈を単行本として刊行したいという話が、すでに持ち上がっている。

(2) また、研究協力者の崔溶澈先生（韓国・高麗大学校名誉教授）は、まもなく『絶纒三笑』の韓国語訳作成に取りかかる予定である。「『訳解笑林広記』全注釈」（全 305 話）が完成すれば、韓国語訳の作成時、本注釈の「補注」及び「余説」に記載された『絶纒三笑』所収話に関する比較文化的考察の結果を活用することもできるであろう。東アジア文化圏における笑話の比較研究が、このように世界的規模で本格化することを期待している。

(3) さらに、本研究プロジェクト最終年度に開催した国際シンポジウム「東アジアにおける笑話」（オンライン）に御参加いただいた中国（台湾）の王國良先生（台北大学名誉教授）は、今後も、引き続き私たちと協力して、東アジア文化圏の笑話研究を推進していくことを約束してくれている。このような、国内外の学术交流により、さらなる笑話研究の発展に寄与したい。

(4) 本研究課題の研究を遂行している際、当初予期していなかった事態として、新型コロナウイルス

ウイルス感染拡大による対面による研究会の実施、最終年度における国際シンポジウムの開催が危ぶまれたことについても、触れないわけにはいかない。この予期せぬ事態から得られた新知見は、このような非常事態においては、オンライン会議システムを用いた合同研究にも、ある程度の可能性が秘められていることに気付いたということであろう。原則的に、極めて厳密な文献実証主義に基づく人文科学研究において、資料調査に支障を来す今回のような非常事態は、間違いなく学術研究の進歩を停滞させるものである。しかしながら、すでに収集した資料が手元にあり、それらの資料調査の結果を、合同研究のメンバーまたは世界中の「笑話」研究に関心を寄せる幅広い方々に向けて報告する手段としては、対面によるシンポジウムにも劣らぬ有用性と実効性があることを、改めて確認することができた。オンラインによる国際シンポジウムの開催は、対面による開催であれば参加できなかった人々も容易に参加しうるという点において、そのような幅広い情報公開の可能性を実現したものと言えるかもしれない。

(5) 一方、浮世草子をはじめとする日本近世小説に見られる「笑話性」の研究については、浮世草子(570作)を対象とした網羅的な調査が、今なお継続的に進めているところだが、本研究課題の実施期間中に、個別の作品における調査結果の報告がなされている(『好色一代男』『世間母親容気』『西鶴諸国はなし』等)。

(6) 日本近世文学作品における笑話研究の実施中、日本に伝わる中国笑話には、所謂「中国笑話集」として編纂された『笑府』『笑林広記』『絶纒三笑』『笑林評』等ばかりでなく、中国日用類書『増補万宝全書』に断片的に収録されている笑話も含まれていることを発見した。これまで出典不明とされてきた和刻本『解顔新話』所収の本文が、中国笑話集でなく中国日用類書に収録された本文と同一であることが確認されたのである。これをただちに典拠であると断定することには慎重でありたいが、一つの重要な発見であることには違いない。

(7) 日本語学研究においては、日本近世における漢文笑話資料に見られる訓点を調査し、『訳解笑林広記』に使用されている「左振仮名」の特徴を分析し、さらには同書に見える「異体の漢字」に関する調査報告も行っている。

(8) 笑話検索システムの構築については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、作業アルバイト学生の確保が困難となっただけでなく、Web表示のためのサーバー調整にも時間を要し、検索機能の検討および実装に注力することができず、未完成のままである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 7件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 川上陽介	4. 巻 32
2. 論文標題 『訳解笑林広記』全注釈（八）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 富山県立大学紀要	6. 最初と最後の頁 65-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 島田大助	4. 巻 24
2. 論文標題 笑話本『軽口笑顔草』について 翻刻および解説	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鯉城往来	6. 最初と最後の頁 135-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒尾禎秀	4. 巻 42
2. 論文標題 和刻本『福恵全書』の漢字にみる通用と誤刻	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 清泉女子大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 29-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上陽介	4. 巻 31
2. 論文標題 『訳解笑林広記』全注釈（七）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 富山県立大学紀要	6. 最初と最後の頁 65-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 島田大助	4. 巻 23
2. 論文標題 『西鶴諸国はなし』「狐の四天王」試論 『狐の草子』・越後騒動などとの関係から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鯉城往来	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上陽介	4. 巻 30
2. 論文標題 『訳解笑林広記』全注釈(六)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 富山県立大学紀要	6. 最初と最後の頁 111-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川上陽介	4. 巻 88
2. 論文標題 『開口新話』小考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 25-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐伯孝弘	4. 巻 1
2. 論文標題 江戸時代の人々は怪異を信じていたのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古典文学の常識を疑う 縦・横・斜めから書きかえる文学史	6. 最初と最後の頁 204-207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田大助	4. 巻 22
2. 論文標題 新出資料 笑話本『はつねまち』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鯉城往来	6. 最初と最後の頁 31-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒尾禎秀	4. 巻 21
2. 論文標題 『福恵全書』抄訳本の左振仮名について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 近代語研究	6. 最初と最後の頁 295-312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒尾禎秀	4. 巻 41
2. 論文標題 和刻本における左振仮名の性格 『福恵全書』の助詞「へ」「二」からの考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 清泉女子大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 23-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上陽介	4. 巻 29
2. 論文標題 『訳解笑林広記』全注釈(五)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 富山県立大学紀要	6. 最初と最後の頁 144-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐伯孝弘	4. 巻 67
2. 論文標題 多田南嶺『世間母親容気』論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 12-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上陽介	4. 巻 86
2. 論文標題 遠山荷塘施訓『訳解笑林広記』小考	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 466-480
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上陽介	4. 巻 1
2. 論文標題 『訳解笑林広記』全注釈(三)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東アジアの古典文学における笑話	6. 最初と最後の頁 135-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 川上陽介	4. 巻 28
2. 論文標題 『訳解笑林広記』全注釈(四)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 富山県立大学紀要	6. 最初と最後の頁 46-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒尾禎秀	4. 巻 1
2. 論文標題 漢文笑話と左振仮名	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東アジアの古典文学における笑話	6. 最初と最後の頁 9-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 佐伯孝弘	4. 巻 1
2. 論文標題 夜食時分の浮世草子	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東アジアの古典文学における笑話	6. 最初と最後の頁 89-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 島田大助	4. 巻 1
2. 論文標題 中国笑話集と『増補萬寶全書』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東アジアの古典文学における笑話	6. 最初と最後の頁 197-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 島田大助	4. 巻 25
2. 論文標題 新出 寶山金西寺蔵『當寺御開山御真筆』 織田信長関連資料	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東海近世	6. 最初と最後の頁 32-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田大助	4. 巻 48
2. 論文標題 織田信長関連資料『當寺御開山御真筆』 「野馬臺詩」「安土山記」との関係から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 青山語文	6. 最初と最後の頁 48-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口満	4. 巻 1
2. 論文標題 漢文テキストのWeb表示 縦書きWebレイアウトに関する取り組み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東アジアの古典文学における笑話	6. 最初と最後の頁 230-246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 崔溶澈、朱俊永	4. 巻 81
2. 論文標題 紅樓夢与金瓶梅的叙事結構設計的比較	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国語文論叢	6. 最初と最後の頁 103-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 崔溶澈	4. 巻 83
2. 論文標題 清代紅樓夢的版本挿図与大衆伝播	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国語文論叢	6. 最初と最後の頁 83-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計19件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 川上陽介
2. 発表標題 『訳解笑林広記』に見える“笑いのツボ”
3. 学会等名 国際シンポジウム「東アジアにおける笑話」（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 島田大助
2. 発表標題 『西鶴諸国はなし』巻三の六「八畳敷の蓮の葉」試論 『太平記』『信長公記』との関係から
3. 学会等名 日本近世文学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 島田大助
2. 発表標題 『西鶴諸国はなし』に描かれる江戸城中の出来事
3. 学会等名 安田女子大学 日本文学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 島田大助
2. 発表標題 18世紀の日本の笑話本 絵の用い方に注目して
3. 学会等名 国際シンポジウム「東アジアにおける笑話」（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒尾禎秀
2. 発表標題 漢文笑話の漢字字体について
3. 学会等名 国際シンポジウム「東アジアにおける笑話」(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 崔溶澈(韓国)
2. 発表標題 朝鮮時代における漢文笑話集と性笑話の特徴
3. 学会等名 国際シンポジウム「東アジアにおける笑話」(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 王國良(台湾)
2. 発表標題 中国・朝鮮・日本における漢文笑話の発展・伝播とその比較
3. 学会等名 国際シンポジウム「東アジアにおける笑話」(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 島田大助
2. 発表標題 江戸時代の文学作品からみる「江戸時代の笑話の特徴」、「日本人の笑いのツボ」について
3. 学会等名 口田文化教室
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 島田大助
2. 発表標題 近世日本の文学に描かれる笑われる人々
3. 学会等名 安田女子大学日本文学科公開講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 崔溶澈
2. 発表標題 絶纒三笑与鍾離葫蘆
3. 学会等名 北京語言大学「中国文化海外伝播」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐伯孝弘
2. 発表標題 近世怪異譚の多様性
3. 学会等名 国際日本文化研究センター機関拠点型基幹プロジェクト「大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田大助
2. 発表標題 『西鶴諸国はなし』巻三の六「八畳敷の蓮の葉」試論 「安土宗論」・狩野派「戯画図巻」との関係から
3. 学会等名 東海近世文学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 崔溶澈
2. 発表標題 笑話的美学：金瓶梅与紅樓夢中的笑話
3. 学会等名 韓国高麗大学中国学研究所（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川上陽介
2. 発表標題 江戸時代の「笑い」について 中国白話文学との出会い
3. 学会等名 射水市交通安全母の会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田大助
2. 発表標題 織田信長関連資料『當寺御開山御真筆』考 「安土山記」他との関連から
3. 学会等名 東海近世文学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 崔溶澈
2. 発表標題 韓国的紅樓夢接受及解読 文化翻訳的策略
3. 学会等名 台湾漢学研究中心（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 崔溶澈
2. 発表標題 女力補天与紅樓夢的神話結構
3. 学会等名 清州 忠北大学 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 崔溶澈
2. 発表標題 中国小説研究の多種方法和研究態度
3. 学会等名 韓国中国小説学会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 崔溶澈
2. 発表標題 紅樓夢与中国的变革
3. 学会等名 NAVER開放論壇 大衆講演 (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 千葉 一幹、西川 貴子、松田 浩、中丸 貴史 (佐伯孝弘)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 266
3. 書名 日本文学の見取り図 (佐伯孝弘「日本文学史を彩る (作った) 名作・作家たち52 『好色一代男』」 pp.192-193)	

1. 著者名 島田大助他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 安田女子大学日本文学科事務局	5. 総ページ数 309
3. 書名 安田文芸論叢 研究と資料 第四輯 (島田大助『西鶴諸国はなし』巻一の六「雲中の腕をし」試論 狩野派戯画との関係から」pp.63-95)	

1. 著者名 卞東坡編著 (崔溶澈)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中華書局	5. 総ページ数 916
3. 書名 縞紵風雅: 第二屆南京大學域外漢籍研究國際學術研討會論文集 (崔溶澈「朝鮮時代萬寶全書的傳播及其翻譯」pp.583-601)	

1. 著者名 久保朝孝編、佐伯孝弘	4. 発行年 2021年
2. 出版社 武蔵野書院	5. 総ページ数 720
3. 書名 源氏物語を開く	

1. 著者名 松田浩、上原作和、佐谷眞木人、佐伯孝弘	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 古典文学の常識を疑う 縦・横・斜めから書きかえる文学史	

1. 著者名 京都大学文学部国語学国文学研究室	4. 発行年 2018年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 640
3. 書名 京都大学蔵 頼原文庫選集 第7巻	

1. 著者名 荒尾禎秀、崔溶澈、佐伯孝弘、川上陽介、島田大助、山口満	4. 発行年 2017年
2. 出版社 新葉館出版	5. 総ページ数 252
3. 書名 東アジアの古典文学における笑話	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	荒尾 禎秀 (ARAO Yoshihide) (20014813)	清泉女子大学・付置研究所・客員所員 (32632)	
研究分担者	佐伯 孝弘 (SAEKI Takahiro) (40255956)	清泉女子大学・文学部・教授 (32632)	
研究分担者	島田 大助 (SHIMADA Daisuke) (50351177)	安田女子大学・文学部・教授 (35408)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山口 満 (YAMAGUCHI Michiru) (60413762)	豊橋創造大学・経営学部・教授 (33930)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	崔 溶澈 (CHOE YONG CHUL)	高麗大学校・文科大学 中国語中国文学科・名誉教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 国際シンポジウム「東アジアにおける笑話」	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 「東アジアの笑話と日本語・日本文学に関する複合的研究」研究成果報告会（2018年度）	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 「東アジアの笑話と日本語・日本文学に関する複合的研究」研究成果報告会（2017年度）	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
韓国	高麗大学校			
中国	国立台北大学			